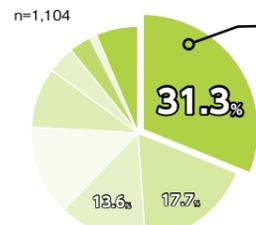


## まちづくりの方向性に対する考え方



自然を保全し、環境に優しい「環境と共生したまち」が31.3%で最も多い。以下、高齢者や体の不自由な方々が安心して暮らせる「健康福祉のまち」(17.7%)、区画整理や公園整備等による優良な住宅地としての「住宅のまち」(13.6%)と続いています。

平成31年3月三芳町住民意識調査

感じてもらうために、植物や生物をビンゴ形式で埋めていく工夫をし、楽しみながら竹間沢のこぶしの里を探索したり、柳瀬川で川の生き物を観察するなど、ツリーイング以外にも地域の自然に小さなころから触れ合う場を作っています。

一方、無駄を減らしてエコを子どもたちから意識してもらうために、地元の大東ガスの協力で「エコ・クッキング」を行い、野菜の皮など普段はすぐに捨ててしまいがちな部分も工夫して食べたり、食器についた汚れも最小限に抑えるなど環境に配慮



### 藤久保のトラスト保全地

都市部の地域でありながら、一団の緑地が形成された貴重な緑地帯。地権者やグリーンサポート隊（ボランティア団体）の協力で保全されてきました。総合運動場に隣接し、緑地公園を含む3.7haがトラスト保全地です。  
※一部民有林舎



エコクッキング



柳瀬川で自然観察



大切に守られてきた緑に囲まれツリーイングを楽しみ、肌でふるさとの自然を感じます

「三芳町は自然が大好き。ずっとと緑が残っていてほしい」と言う子どもたち。その想いが枯れないように、エコクラブの活動は続きます。

### 故郷の自然を守り続けたい

故郷三芳町の自然が大好き。そう思えるのは小学1年生の時にエコクラブに入ったから。こぶしの里で草木や昆虫を探したことなど、活動を通じて三芳町の自然に触れたことがずっと心に残っています。私の心を癒してくれるのは、三芳町の緑や自然。エコクラブで学んだ三芳町の自然や人との交流、故郷の自然を地域に伝え守り続けるためサポーターとして支えていきたいです。

自然豊かな三芳町を未来へ繋ぐ！



竹の子エコクラブサポーター&卒業生 草間 梨花さん (三芳東中学校卒業)

生まれ育った町の自然を忘れないでほしいと願う村上さん。「大人になった時、生まれ育った町の大好きだった緑や生物がいなくなったら、どんなに悲しいでしょう。故郷の自然を守りたいと思えるように、三芳町の自然を知り、触れあう場をこれからも作り続けていきたいです。」

し、子どもたちは未来のためにできることを学んでいます。「自然に触れあい、その大切さを子どもたちは感じているようです。地域の自然環境を守るための方法を、子どもたち自身が自主的に考えるようになりました」と成果を話す代表の村上久美子さん(60)。

### 三芳町の自然と緑をずっと守るために

#### 自然豊かなトカイナカ三芳町の魅力

##### グリーンサポート隊

以前は草木が生えたままごみが散乱していた緑地公園周辺を地元ボランティアのグリーンサポート隊が整備。今では綺麗になりました。

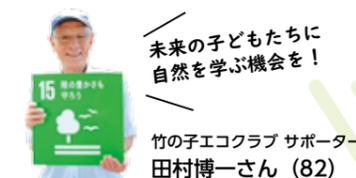


##### 蛭舞う、こぶしの里

こぶしの里を舞うホタルは4月に地元の小学生が幼虫を放流し、5月下旬から6月中旬ごろ成虫に。脇を流れることもの川でザリガニ釣りをする親子の姿がよく見られます。



9月28日に緑地公園で行われた竹の子エコクラブのツリーイング参加者。環境保全や環境学習などに取り組む団体が表彰される「さいたま環境賞」に2009年受賞するなどエコクラブの活動は高く評価されています。



未来の子どもたちに自然を学ぶ機会を！  
竹の子エコクラブ サポーター 田村博一さん (82)

### 故郷の自然を子どもたちへ

三芳町は自然が豊かで緑に囲まれている素敵な町です。三芳町の自然を肌で体感しながら、故郷の緑の豊かさを学んでほしいと思ったとき、竹の子エコクラブを発足させ、学びの場を作りました。

## 大好きな町の自然と緑をずっと守り続けていきたい

都会でもない、田舎でもない、トカイナカ三芳町。なぜ自然が豊かなままでいられるのか……。その背景には子どもたちへの想いが隠されていました。



### 竹の子エコクラブ

2002年5月に活動を開始した竹の子エコクラブ。地域の自然や生き物、歴史に触れて、自然の大切さや環境を考える活動をしています。

「自然環境や生き物に関心をもち、大人になったとき地域の環境活動ができる子を育成することを目的に活動を始めました」という立ち上げに関わり、現在も自然や環境について学びを伝える田村博一さん(82)。

エコクラブでは自然を身近に



こぶしの里で木の葉の種類を教える田村さん。子どもたちは興味津々。真剣に聞き入ります。